

取扱・工事説明書

貫流型高効率温水ボイラ HRH

はじめに

このたびは細山熱器（株）HRH 貫流型高効率温水ボイラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みになり、本機の性能を十分に発揮できますようお願いいたします。

取扱・工事説明書の表記

製品を正しくお使いいただくためや、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、この取扱説明書及び製品への表示はいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読み下さい。



警 告

この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定されることを表しています。



注 意

この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が障害を負う可能性が想定される場合及び物的障害のみの発生が想定されることを表しています。

目 次

取扱説明編

特に注意していただきたいこと	2
各部の名称	3
ご使用前に	5
使用方法	5
マイコンコントローラ設定方法	7
日常の点検とお手入れ	8
故障かな？と思ったら	9
長時間使用しない時	10

設置工事説明編

設置に関する注意事項	11
仕様	15
アフターサービスについて	18
取扱説明書の再入手方法	18

◎ 特に注意していただきたいこと



警 告

- 銘板に表示してあるガスグループ名、電源、ガス圧が適合していることを確認して下さい。正常に作動しなくなるばかりでなく事故の原因になります。
- 屋内設置の場合、換気口を必ず設けて下さい。不完全燃焼を起こし一酸化炭素中毒の原因となります。
- 吸気口、排気口は塞がないで下さい。不完全燃焼の原因になります。
- ガス臭気気付いたらすぐに使用を止めガスの元栓を閉じ、窓や戸を開けて換気をし、ガスの供給業者に連絡して下さい。
- ガス漏れが生じた時は絶対に火を付けたり、換気扇や電気器具のスイッチの操作や電源プラグの抜き差しなどはしないで下さい。火花が散り、引火・爆発することがあります。
- 機器の設置・移転及び付帯工事は、お買い上げの販売店もしくは専門の業者に依頼し、安全な位置に正しく設置して下さい。



注 意

- 機器及びその周囲には燃えやすいものを貼ったり、掛けたり、置いたりしないで下さい。火災の原因になります。
- 機器の分解・修理・改造はしないで下さい。事故や故障の原因になります。
- 濡れた手で操作盤に触れないで下さい。感電することがあります。
- この機器は給湯用に使用する目的で作られていますのでそれ以外には使用しないで下さい。思わぬ事故の原因になることがあります。
- 使用中及び使用後は排気筒・本体・配管など、部分によっては熱くなっていますので手を触れないで下さい。やけどの恐れがあります。
- 耐火構造の場合、条例で制限がない場合でも、ボイラの周囲には操作・点検・配管などのためのサービススペースを設けて下さい。メンテナンスが困難になります。
- 万一異常を感じた場合には、直ちに運転を停止し「故障かな？」に従って下さい。

お願い

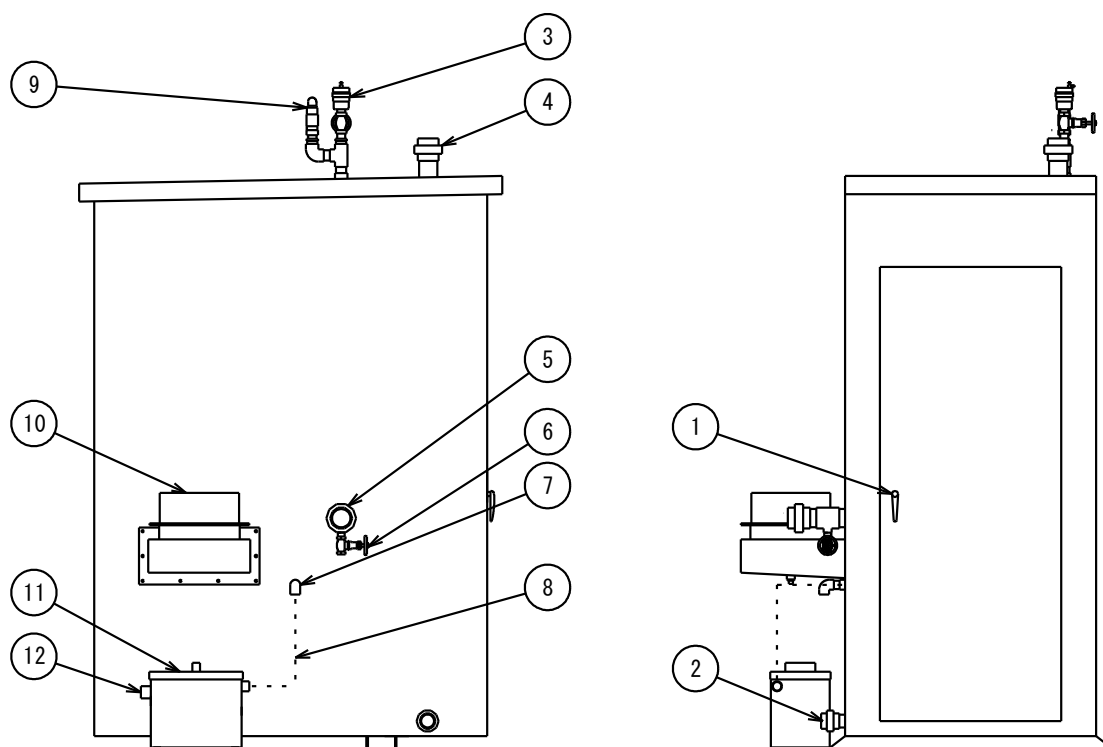
1. 使用者が変わった場合には、必ず本書を読ませかつ指導して下さい。
2. ご使用後は、止水栓・ガス元栓を閉めて下さい。
3. 井戸水は使用しないで下さい。機器の寿命を縮めます。

取扱説明編

器具をご使用になる方へ

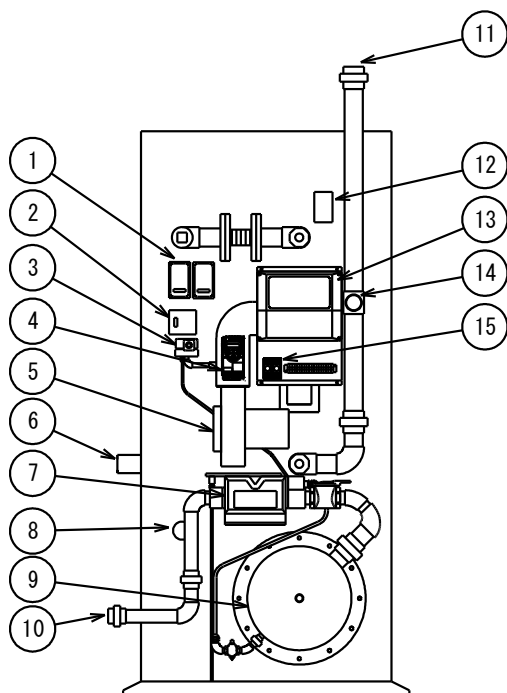
各部の名称

■ 外観



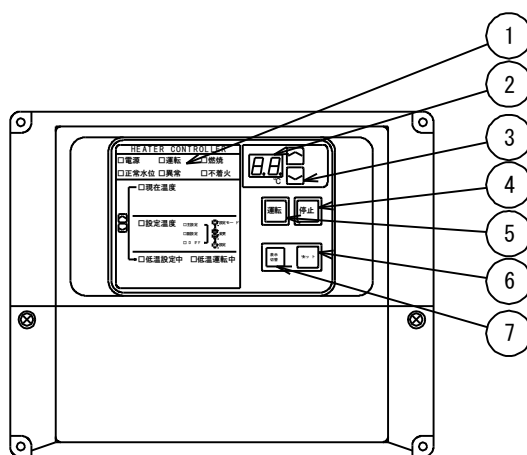
1	ドアハンドル	2	ガス接続口	3	自動エアー抜き弁
4	出湯口	5	給水口	6	排水口
7	本体ドレン口	8	フレキチューブ	9	安全弁
10	排気口	11	ドレン中和槽	12	ドレン排水口

■ 内部(図は HRH-20)



1	マグネットスイッチ	2	漏電ブレーカー	3	空気圧カスイッチ
4	インバータ	5	燃焼ファン	6	給水口
7	ガス複合弁	8	ドレンスイッチ	9	ガスバーナ
10	ガス接続口	11	出湯口	12	ハイカットサーモ
13	マイコンコントローラ	14	圧力計	15	補助リレー

■ マイコンコントローラ



1	ランプ類	4	停止スイッチ	7	表示切替スイッチ
2	表示部	5	運転スイッチ		
3	UP,DOWN スイッチ	6	リセットスイッチ		

ご使用の前に



空焚きは絶対にしないで下さい。

- 付属品の確認と安全に取り付けられているか確認して下さい。
- 電源を入れる前に、もう一度銘板に表示されているガスグループ名・電源・ガス圧が適合していることを確認して下さい。
- 止水栓を開け、元電源が入っていることを確認して下さい。
- 運転ボタンを押す前に圧力計の針が所定の位置を指しているか確認しさらに給湯栓から水が出ることを確認して下さい。
- 機器及びその周辺に燃えやすいものが置いていないか確認して下さい。

使用方法

■ 点火順序

1. 温水ボイラの給水バルブの開を確認し、給水されていることを確認して下さい。
2. ガス元コック（区分バルブ）を開けて下さい。
3. 元電源を入れて下さい。
4. 運転スイッチを押して「ON」にして下さい。

運転ランプが点灯し、燃焼ファン・強制排気ファンが回転します。約 40 秒のプレページ後にガス複合弁パイロット部が開き、スパークによりパイロットガスに点火されパイロット炎が形成されます。そのパイロット炎をフレイムロッドが検出し、約 15 秒後にガス複合弁メイン部が開き、同時に燃焼ランプが点灯し主バーナが点火します。

☆着火不良の場合

ブザーが鳴ります。(この時パイロット電磁弁が閉になっていますので生ガスは出ません。) 停止スイッチを押すと、ブザーが鳴り止みます。リセットスイッチを押すと再運転します。

注：初めの点火時にガス配管中の空気が抜けてガスが出るまでの間、点火できず安全装置が働き不着火で 1～2 度ブザーが鳴ることがあります。故障ではありませんので点火順序に従い 1～2 回上記の動作を繰り返して下さい。

5. 主バーナが点火して湯温が設定温度（通常 60～90℃）から 1～9℃(可変)マイナスに達しますと、温度調節器が働き高燃焼から低燃焼に移行します。湯温が設定温度に達しますと、バーナの燃焼、及び燃焼ファン・強制排気ファンを停止させます。(燃焼ランプ消灯) 再び温度が降下しますと、自動的にバーナに点火（燃焼ランプ点灯）し湯温を一定に保ちます。

■ 消火手順

1. 停止スイッチを押して下さい。ガス複合弁が閉になり消火し、ボイラの運転は停止します。
2. ガス元コック（区分バルブ）を閉めて下さい。

■ 使用上の注意



注 意

- 使用始めの点火、使用終了の消火の確認及び使用中には時々正常に燃焼しているかどうか目視にて確認して下さい。
- 夜おやすみの時や外出の時などは、必ず運転を停止して下さい。
- 使用中には換気口は常に開けておき、物などで塞がないで下さい。
- 排水を行う時は、温度が下がってから行って下さい。

■ 安全装置が作動した時の処理方法

使用中に万一何かの異常で火が消えた場合は、安全装置が働いて自動的にガスが止まります。消火に気が付きましたらガス漏れ、ガス切れ（LPG）など原因を確認の上、消火後5分以上待ち十分にガス臭気がなくなったことを確認した上で、点火順序に従い再点火して下さい。再度、火が消えるようであれば販売店、又は弊社までご連絡下さい。

■ 感震器について（オプション）

当ボイラには安全装置として、地震がきた場合には、自動的に燃焼を停止する感震器が装備されています。これが作動した場合は以下の手順でリセットして下さい。リセットを行わなければボイラは正常に作動致しません。

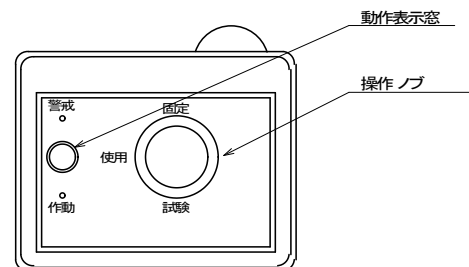
固定：地震などにより作動したスイッチをリセットさせる位置です。（この位置ではスイッチは切れたままです。）

使用：実際に使用する時はこの位置にノブの矢印を戻して下さい。（動作表示窓は緑でスイッチが入ります。）

試験：あなたが作動を点検する時に回して下さい。（動作表示窓は赤になりスイッチは切れません。）

作動した時のリセット方法

操作ノブをゆっくり固定に回して緑にリセットし、再びノブを使用に戻して下さい。もし赤に戻るならばリセットされていませんからもう一度行って下さい。



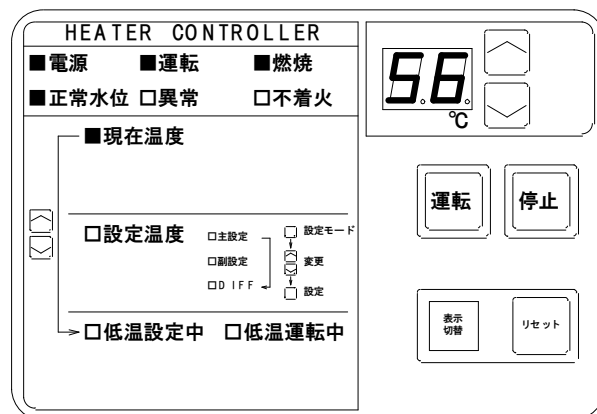
■ ハイカットサーモについて

給水口にハイカットサーモが付いています。このハイカットサーモの設定値が低いと、湯温がマイコンコントローラの設定温度になる前に燃焼が停止します。ハイカットサーモの設定値は、マイコンコントローラの設定温度より 5℃～10℃低めを目安に設定して下さい。

マイコンコントローラセット方法

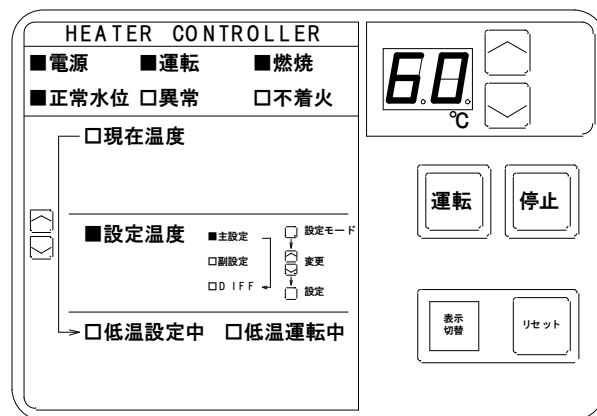
1. 現在温度表示

- (1) 現在温度ランプが点灯するように UP / DOWN キーで設定します。現在温度ランプが点灯している時は、現在温度（ボイラ缶水温度）が表示部に表示されます。
- (2) 現在温度表示中に UP / DOWN キーを押すと、設定温度又は低温設定に移行します。



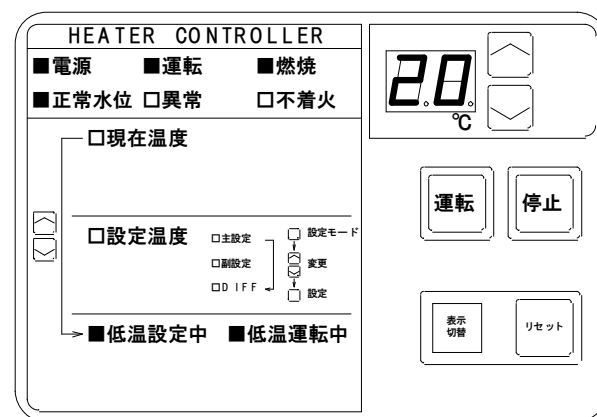
2. 缶水温度設定

- (1) 設定温度ランプが点灯するように UP/DOWN スイッチを押して下さい。設定温度ランプが点灯している時は、缶水温度設定になります。
- (2) 缶水温度設定に移行すると、まず主設定ランプのみが点灯し表示部は主設定値(缶水温度設定値)を表示します。
- (3) 主設定ランプのみが点灯時に表示切替スイッチを押すと表示部が点滅し、設定変更となります。ここで UP/DOWN スイッチを押すと、設定温度が変更されます。
- (4) 再度表示切替キーを押すと、表示部点滅中の値が設定温度として設定完了となります。設定温度表示中に UP/DOWN スイッチを押すと、現在温度又は低温設定に移行します。



3. 低温運転設定

- (1) 低温設定中ランプが点灯するように UP/DOWN スイッチを押して下さい。低温設定中ランプが点灯している時は低温運転設定になります。
- (2) 低温運転中ランプが点滅又は点灯していれば、低温運転状態になっている事を示します。表示切替スイッチを押すと、低温運転中ランプが消灯し低温運転状態が解除されます。逆に低温運転中ランプが点灯している時に表示切替スイッチを押すと、低温運転状態になります。
- (3) 低温運転状態で運転スイッチを押すと、低温運転中ランプが点灯し低温運転「ON」になります。停止スイッチを押すと、低温運転中ランプが消灯し低温運転「OFF」になります。



ります。低温運転では缶水温度が約 7℃になると低燃焼動作に入り、約 15℃で低燃焼動作が止まります。

- (4) 低温運転設定中に UP/DOWN スイッチを押すと、現在温度又は設定温度にランプが移行します。

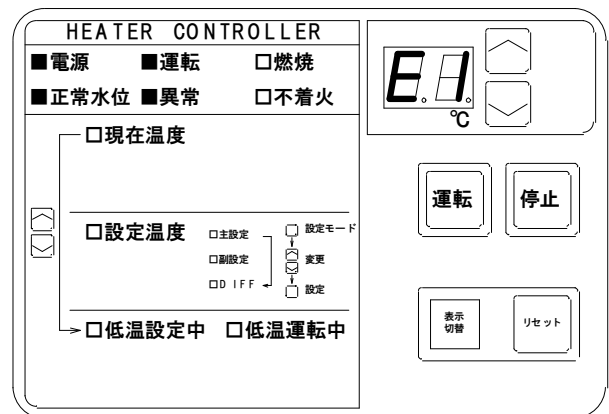


注 意

- 通常使用を行う場合は低温運転設定を解除して下さい。低温設定のままでは出湯温度は上がりません。

4. 異常状態の解除

- (1) 警報ロックアウトモードになると異常ランプが点灯し、表示部に警報コードが表示されブザーが鳴ります。(故障の修理方法と処置参照) 不着火エラーは上記の動作に加えて、不着火ランプが点灯します。
- (2) ここで停止スイッチを押すとブザーは停止しますが、ロックアウト状態は維持されます。(異常ランプも点灯し続けます。) ロックアウト後のポストパージ終了後にリセットスイッチを押すと、リセットされて停止状態へ移行します。(異常ランプも消灯します。) 停止スイッチを押さずにリセットスイッチを押してリセットした時は、ブザーも同時に停止します。
- (3) 異常の原因を取り除き、再度運転スイッチを押して「ON」にして下さい。



日常の点検とお手入れ



注 意

- お手入れは、ボイラ本体が十分に冷めてから行って下さい。火傷します。
- 掃除を行う場合、操作部に水が掛からないようにして下さい。防水ではありませんので故障の原因となります。

1. 点検

- ガス管の接続状態、及び周辺にガス臭気がないか漏れの有無を時々石鹸水で点検して下さい。掛からないようにして下さい。
- 給水・給湯などの接続部より水漏れがないかどうかを点検して下さい。
- 安全装置及びガスの通路部分は絶対に分解しないで下さい。

2. お手入れ

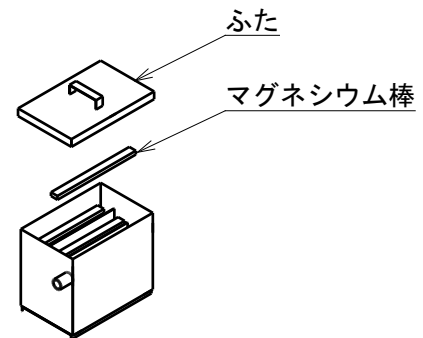
- お手入れの前には必ずガスの元栓、給水バルブを閉めてから行って下さい。
- 電源スイッチを「OFF」にして元電源を切ってから行って下さい。
- 外装の汚れは中性洗剤を使用し、布でふき取って下さい。
- 一年に二回程度スパークロッド及びフレームロッドを外し、サンドペーパーで金属部分の表面を磨いて下さい。

3. 機器周辺の状態

- 機器周辺に燃えやすい物が置いていないかなどを点検して下さい。

4. 中和槽点検とお手入れ

当ボイラは、ドレン中和槽が取り付けられています。図に示すように中和剤(マグネシウム棒)を取り出し、定期的に清掃して下さい。清掃は水洗いで行い、完全に汚れを落とした後にセットして下さい。汚れがひどい場合や形が崩れている場合は、新しい物と交換して下さい。交換の場合は販売店、又は弊社にご連絡下さい。直ちにお送り致します。



注 意

- 中和剤の年間当たりの清掃回数は、ボイラの使用頻度によって変わりますが、最低年に1回以上は行って下さい。

故障かな？と思ったら

マイコンは故障表示に対応した記号が点滅表示され同時にアラーム音を発し故障箇所と原因を知らせます。

記号	原因	処置
A A	電源立上時警報状態	前回警報状態で電源を切っています。リセットスイッチを押して下さい。
E 0	不着火	パイロット炎又はメイン炎が点火しません。ガスコックが開いているか確認して下さい。その他の場合には点検が必要です。
E 1	断火	正常燃焼中に異常消炎しました。燃焼中にガスコックを閉じていませんか。その他の場合には点検が必要です。
E 2	待機中擬似炎	スタート時に擬似火炎を検出しました。
E. 2	ページ中擬似炎	ページ中に擬似火炎を検出しました。点検が必要です。
E 3	ハイカットマイコン	缶体水温が異常上昇の為ハイカットが働きました。点検が必要です。
E 3.	ハイカットハード	缶体水温が異常上昇の為ハイカットが働きました。点検が必要です。

E 4	缶体過昇温度検知	缶体が過昇温度を検知しました。点検が必要です。
E 5	ドレン水異常	缶体にドレン水が溜まりました。ドレン排水口の詰まりを確認して下さい。
E 6	低水位	低水位の線の異常です。点検が必要です。(当ボイラは水位制御を行っていません。)
E 8 E. 8 E 8.	水位電極異常	水位電極線の異常です。点検が必要です。(当ボイラは水位制御を行っていません。)
E 9	地絡	地絡を検出しました。電磁弁・点火トランス等が接地されていないか確認して下さい。
E A	ファン異常 (空気圧カスイッチ)	ファン異常又は空気圧カスイッチが感知しません。ダンパーを少し開けるか又は点検が必要です。
E b.	H i ファイア異常	H i ファイアインターロックの線が断線しました。点検が必要です。
E. b	L o ファイア異常	L o ファイアインターロックの線が断線しました。点検が必要です。
E. b.	H i、L o ファイア同時ON	H i ファイアインターロックとL o ファイアインターロックが同時に入りました。点検が必要です。
A 1	サーミスタバーンアウト	サーミスタが断線しました。交換が必要です。
A 1.	サーミスタショート	サーミスタがショートしました。交換が必要です。
A 4	ハイカットサーモ作動	ハイカットサーモが作動しました。湯温度が下がると自動的に復帰します。
E C	予約運転装置異常 (オプション)	予約運転ON時にリモコン通信が不通、リモコン線短絡となりました。点検して下さい。
E E. E E E. E	マイコン異常	マイコン異常です。点検が必要です。

長時間使用しない時

長時間（5日間以上）ご使用にならない場合は、運転を「OFF」にし元電源を切って下さい。又ボイラ内の水のPH値を6～7に保つように、適当な方法で薬液を投入して下さい。保存方法が悪いと異常な腐食を起し、赤水の原因やボイラの寿命が著しく短くなることがあります。特に納入設置後より使用始めまでの期間が長い場合は、注意して下さい。

設置工事説明編

設備業者及び工事をされる方へ



警 告

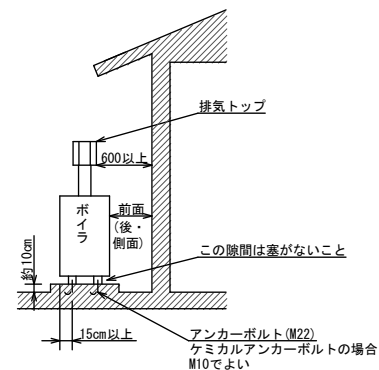
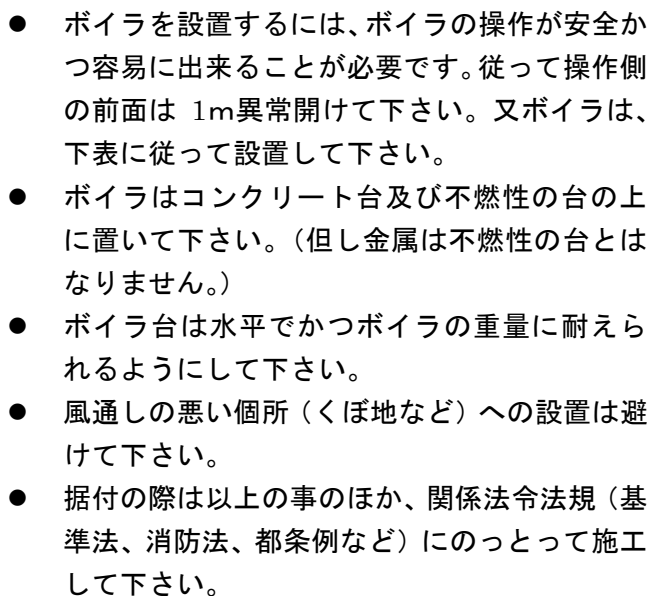
- 銘板に表示してあるガスグループ名、電源、ガス圧が適合していることを確認して下さい。正常に作動しなくなるばかりでなく事故の原因になります。
- 屋内設置の場合、換気口を必ず設けて下さい。不完全燃焼を起こし一酸化炭素中毒の原因となります。
- 吸気口、排気口は塞がないで下さい。不完全燃焼の原因になります。
- ガス臭気気付いたらすぐに使用を止めガスの元栓を閉じ、窓や戸を開けて換気をし、ガスの供給業者に連絡して下さい。
- ガス漏れが生じた時は絶対に火を付けたり、換気扇や電気器具のスイッチの操作や電源プラグの抜き差しなどはしないで下さい。火花が散り、引火・爆発することがあります。
- 建築物が耐火構造でない場合、可燃性の壁・天井・物品からの火災予防上安全な距離を保つよう、消防条例によって規制されています。但し、この条例は地方により異なるので前もって確認して下さい。
- ボイラ満水時の重量を考慮して、床は十分耐える場所に設置して下さい。
- 機器の設置・移転及び付帯工事は、お買い上げの販売店もしくは専門の業者に依頼し、安全な位置に正しく設置して下さい。



注 意

- 機器及びその周囲には燃えやすいものを貼ったり、掛けたり、置いたりしないで下さい。火災の原因になります。
- 煙突の曲がり数や横引きの長さに注意して下さい。曲がり数の数が多かったり横引きが長いと不完全燃焼になり、燃焼が不安定になります。
- 機器の分解、修理、改造はしないで下さい。事故や故障の原因になります。
- 濡れた手で操作盤に触れないで下さい。感電することがあります。
- この機器は給湯用に使用する目的で作られていますので、それ以外には使用しないで下さい。思わぬ事故の原因になることがあります。
- 使用中及び使用後は排気筒、本体、配管など部分によっては熱くなっていますので手を触れないで下さい。火傷の恐れがあります。
- 耐火構造の場合、条例で制限がない場合でも、ボイラの周囲には操作・点検・配管などのためのサービススペースを設けて下さい。メンテナンスが困難になります。
- 万一異常を感じた場合には、直ちに運転を停止し「故障かな?と思ったら」に従って下さい。

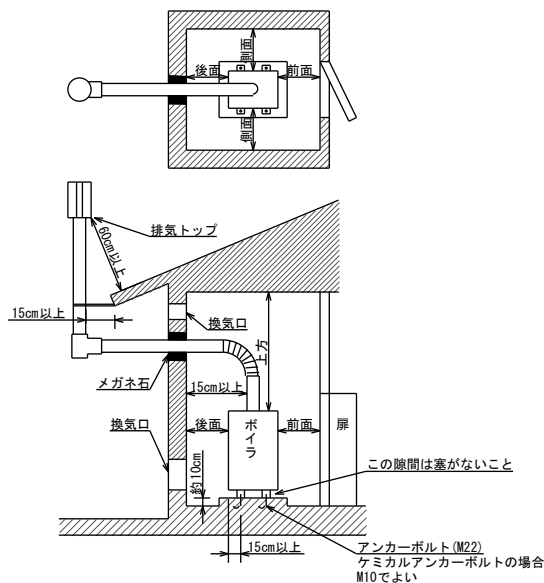
- 水頭圧はボイラ内胴の缶底より減圧（高架）水槽の液面までの高さです。



当ボイラは外置仕様ですが、屋内に設置しても構いません。但しこの場合は、前記の事柄に加えて以下の事に注意して下さい。

- MANU471 HRH マイコン

- 排気筒径は途中で縮小してはいけません。
- 煙突の先端には排気トップ（多翼型又はH型）を付けて下さい。
- 本ボイラは排気温度が 40℃前後であり、通常のドラフトによる排気ではなく強制押し込みファンによります。従って排気筒の通気総抵抗値が 2mmH₂O 以上の場合は、排気筒の途中に排気用のファンを設置して下さい。排気ファンの選定は、当社にご相談下さい。
- 排気筒の継目及び接続口などには、隙間が出来ないようにして下さい。排気温度が低いためにドレンが排気筒内に付着し、水滴が排気筒内に溜まります。この水滴は pH 値で 3～5 の値を示し、これが排気筒の隙間から漏れるとまわりの物を汚損したり、金属などは腐食などの悪影響を及ぼしますので、隙間を完全にシールして下さい。
- 排気トップの位置は建物の側面ではなく、建物より高いあらゆる方向の風が通り過ぎるところにして下さい。
- 排気筒の可燃性壁体貫通部には、メガネ石又はそれと同等の断熱材を用います。排気筒は木材その他の可燃物より 150mm 以上離します。又、排気筒の屋上部突出部は、屋根面からの垂直距離を 600mm 以上とします。（火災予防条例による）



換気口面積の計算式

$$\text{換気口 1 個の断面積}[\text{cm}^2] = \text{消費熱量}[\text{kcal/h}] \times 100[\text{cm}^2] \div 10000[\text{kcal/h}]$$

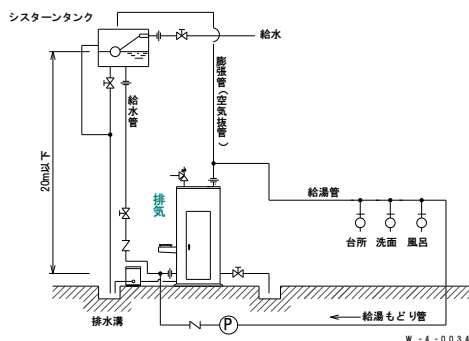
■ お客様への説明

- 使用方法を取扱説明書に従ってお客様へ説明して下さい。

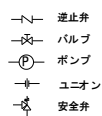
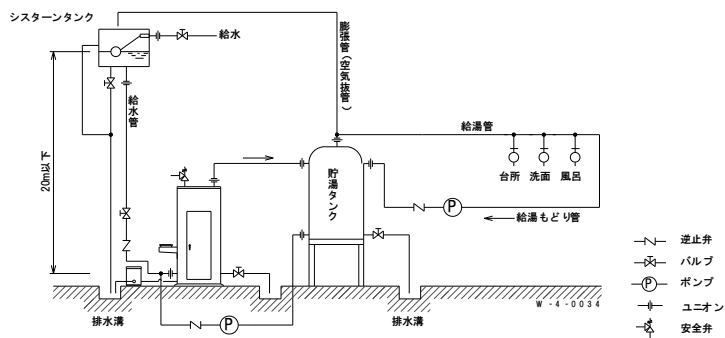
■ ボイラ配管

- 配管方式は下図標準例を参照して下さい。

・貯湯タンク無しの場合



・貯湯タンク有りの場合



■ 関係法令他

- ボイラ及び圧力容器安全規則抜粋

(A) 小型ボイラとして規定されたもの(貫流型の場合)

「ゲージ圧力 10kg/cm² 以下で使用する貫流ボイラで、伝熱面積が 10m² 以下のもの」

(B) 簡易ボイラ（構造検査及び小型ボイラの適用を受けないもの）として規定されたもの

「ゲージ圧力 5kg/cm² 以下で使用する貫流ボイラで、伝熱面積が 10m² 以下のもの」

- ボイラ取扱作業主任者

小型ボイラ・簡易ボイラとも必要ありません。但し、小型ボイラに関してはその取扱者に安全のための特別教育を（その記録を 3 年間保存）する必要があります。但し、特別教育の科目の全部又は一部について十分な知識及び技能を有していると認められる労働者については、特別教育を省略できます。

- 定期自主検査

小型ボイラ（構造検査証付ボイラはもちろん）には、1 年に 1 回定期自主検査が必要です。記録は 3 年間保存します。

小型ボイラの場合の点検事項

1. ボイラ本体、燃焼装置、バーナタイル、自動制御装置、及び付属品の損傷又は異常の有無
2. ガスの外部漏れ
3. 電磁弁のリークテスト

尚、自主検査を行い、その結果を保存して下さい。

（上記は法令ボイラ及び圧力容器安全規則第 5 章第 90 条による）

- 届出

(A) 小型ボイラ設置の場合「小型ボイラ設置報告書（様式第 26 条）」の届出が必要です。

☆ 構造図

☆ 小型ボイラ明細書（様式 2 号の 4－機械等検定規則様式－）

☆ 設置場所周囲の状況を示す図面

(B) 簡易ボイラ設置の場合は簡易ボイラに関する許可申請、報告などすべて提出を要しません。「火を使用する設備等の設置届」を所轄消防署へ提出して下さい。

（消費熱量 60000kcal/h 未満は不要）

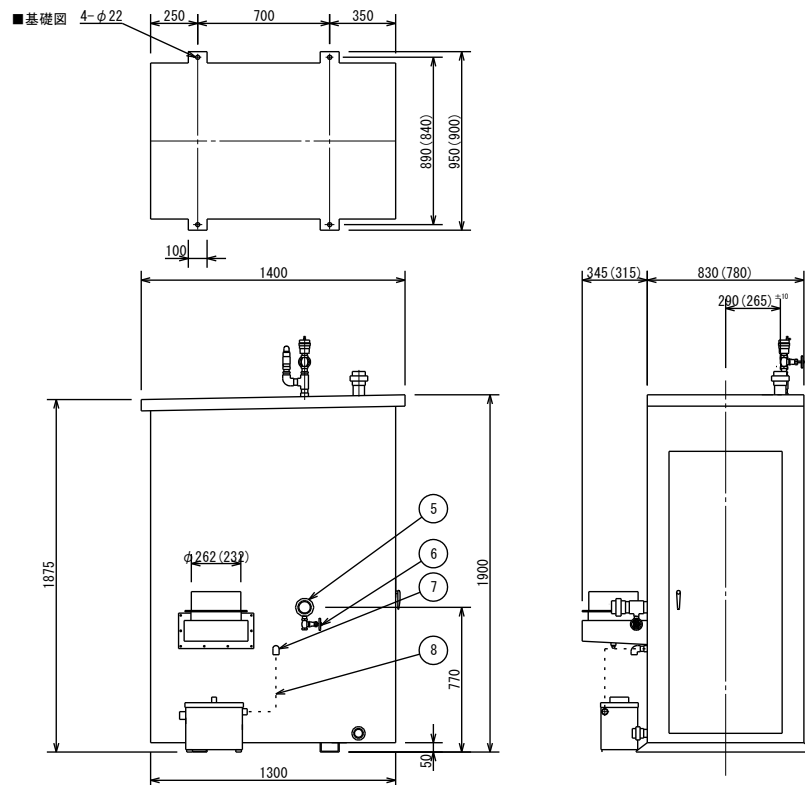
(C) 提出は全てボイラの施設者・使用者により、その所轄の労働基準監督署・消防署へ提出して下さい。

仕 様

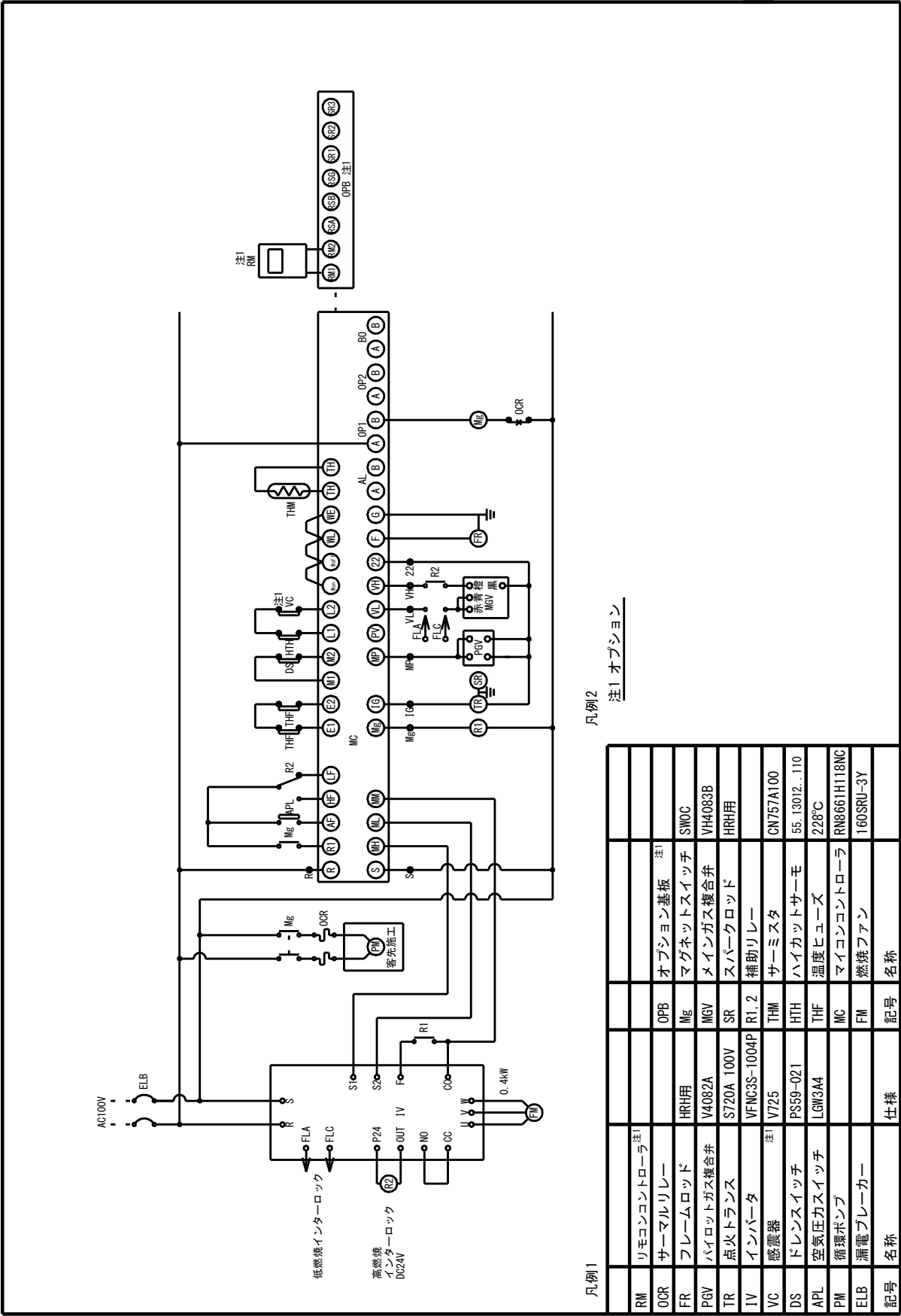
■ 性能表

	HRH-15	HRH-20
定格出力[kW]	174.4	232.6
[kcal/h]	150000	200000
伝熱面積[m ²]	4.0	4.9
連続出湯量(35deg)[L/h]	4285	5714
定格入力(高位)[kW]	183.7	244.9
[kcal/h]	158000	210600
ガス消費量(13A/LPG) [Nm ³]	14.7/6.6	19.1/8.8
最高給水圧[kPa]	196	196
最高設定温度[°C]	90	90
電源 電圧[V]／容量[kW]	100/0.7	三相 200/0.7
運搬重量[kg]	700	約 850
給水口(A)	50	50
出湯口(A)	50	50
逃がし弁(A)	20	20
排水口(A)	15	15
ガス口(13A/LPG)(A)	25/20	32/25

■ 寸法表(()内は HRH-15 の寸法)



■ 配線図 (HRH-15)





アフターサービスについて

サービス（修理）のご依頼をされる前にもう一度「故障かな？」を確認の上、販売店もしくは細山熱器（株）サービス課までご連絡下さい。アフターサービスをお申し付けの際は次のことをお知らせ下さい。

品名：高校率全熱温水ボイラ 電源電圧：〇〇〇V ガスの種類：〇〇
型式：HRH-〇〇 製造番号：〇〇〇〇

故障内容、異常の状況をできるだけ詳しくお伝え下さい。又、お客様のご住所、電話番号、会社名、担当者名をお知らせ下さい。尚、製品の修理に関するお問い合わせは下記までお願いします。

拠点名	電話番号	住所
細山熱器（株）本社	TEL:03-3249-0331 FAX:03-3249-0329	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-8-7
細山熱器（株）札幌営業所	TEL:011-736-0371 FAX:011-758-0739	〒001-0019 札幌市北区北 19 条西 5-20
細山熱器（株）新潟営業所	TEL:025-246-0166 FAX:025-241-3833	〒950-0916 新潟市中央区米山 1-5-5
細山熱器（株）大阪営業所	TEL:06-6922-5581 FAX:06-6921-2040	〒535-0031 大阪市旭区高殿 2-7-19
細山熱器（株）福岡営業所	TEL:092-403-0255 FAX:092-403-0257	〒815-0033 福岡市南区大橋 3-25-1 貞方ビル D 号室
細山熱器（株）仙台出張所	TEL:022-272-0909 FAX:022-275-9473	〒981-0916 仙台市青葉区青葉町 5-3

取扱説明書の再入手方法

この取扱説明書を紛失した場合、最寄の営業所に依頼して下さい。有料にて手配致します。尚、依頼される時は取説番号をお伝え下さい。

この取扱説明書の取説番号は、HRH-取説-003です。